

編輯室の内外

大正十四年の末期も迫つて來た、巷間では歳暮贈答品の大賣出しに景氣を附けて居るが、何と言つても九千人の失業者を算して居る帝都だもの景氣の可い譯はない、空景氣——年中行事の情性に外ならない。編輯室の一同も御多分に漏れず餘り景氣の可い方ではない。併しながら

何と言つても一萬の讀者を相手として氣焔を擧げて居るのであるから誰一人不景氣な顔をして居るものはない顔だけ、否な々々懐のなかも元氣で新年號の編輯に力めて居る、併しながら其の懐のなかには物質的のものでなく物質萬能主義を呪咀するものだけである。

人氣を博した自動車道路助成案が關から關に葬られて終つた、併し時勢の要求は人爲を以て抑制しても到底駄目である、何れ此議會で問題にならうし、在野黨は之を黨是とするらしい、負けぬ氣を

編輯室の内外

出して言ふのではないが、吾人は寧ろ現内閣の下に百萬やそこらの端た金で、此良案が是認されなかつたことを喜ぶのである、やるなら大にやるべし鶴的折衷方針の如きは此案には禁物である。

新年號から發行日なその月の一日に變更した、多數同業の例に倣つたのであるが、何とかして本誌を我が路政界の木鐸たらしめ度い微意に外ならない、吾人が讀者各位に言はむと欲する所は誌上で通するのであるが、讀者各位の路政に關する意見又は研究乃至經驗を承ることは、獨り編輯子のみならず路政に關係する一般のもの希望する所であるので、新年號から誌上の一部を讀者の爲に開放した。遠慮なく投稿して貰ひ度い。

我が路政の爲に餘り香しくなかつた大正十四年も今正に去らむとして居る。去れ大正十四年、來るべき新年は吾人八歳

の春を迎ふるのである昔は歳詩も出來たであらうが、吾人は後鉢巻をして路政の爲に奮闘するのである、之を抑制し妨止せむとする何物に對しても、筆誅を加へて吾人の活歩すべく運命附けられた歳である。

卷末に筆を採るに方り、筆硯を新たにして各位に見へむことを約し、讀者各位の健康を祈つて筆を擱く(た)

本號定價 金五拾錢
(一ヶ年分 金六圓)

東京市麹町區大手町一丁目

發行者 社團 法人 道路改良會

同

編輯者 小 島 效

東京市小石川區諏訪町五十六

印刷所 常 磐 印刷 所

同

印刷者 堀 江 關 武